

第2回基本構想検討委員会において委員から出された主な意見等

- 石川の植樹祭から新しいパラダイムを出していくには、先催県とは重ならない大会理念の基本コンセプトを選び出していく必要があるが、「生物多様性」の概念はこれまで用いられておらず、里山里海の実践を進める石川からの新しい方向性を示すテーマとしてふさわしいのではないかと。
- 森が大切とあって育てるのはよいが、育った後にどうするかも重要であり、石川の植樹祭では、森林資源の利用を前面に出して全国に発信していくべきではないかと。一方では、木材の価格が安くなったため、森林所有者は伐採をしてもその後の再造林や保育経費を負担すると収益が確保できない現実があり、植樹祭を契機に安心して山に再投資する仕組みや木材を利用するビジネスモデルができれば、森林を造成してきた先人の努力にも報いることとなると思われる。生物多様性についても、森林を循環的に利用することによって成り立っていることをうまく伝えられればよい。
- 石川県は、全国有数の海岸林面積を誇っており、海岸林も含めた災害に強い森づくりという開催理念も、新しい方向性を示すことができるのではないかと。
- 森林の重要性は、動植物を育むだけでなく、森で仕事や生活の体験をすることにより、若い女性や子供を含め、人も育てるという観点も PR のポイント。
- 他県と異なる石川らしさの面では、新幹線の開業を念頭に植樹祭の誘致をしている中で、交流人口の拡大による経済効果への期待にも言及してほしい。
- お手植え会場については、植樹祭の後 10 年～20 年後くらいに育樹祭が開催されることを見据えれば、お手植え樹木を適正かつ厳正に管理していく必要性も考慮し、今回示された県有地で考えるのは妥当。
- 運営面では、参加者の宿泊所から式典会場、あるいは終了後の会場から JR 駅までの移動等アクセスの面、駐車場や降車場の確保の問題、セキュリティの問題等が重要であり、今回示された選定基準案は妥当と思われる。
- 植樹祭の記念事業のうち、地域植樹行事については、石川県全市町でリレー方式でやるのか、林業や里山のグリーンツーリズム、食・文化・歴史といった要素も組み込むなど、様々な工夫ができれば、広く内外から人を呼び込めるのではないかと。
- 単発的な活動に終わってしまっている企業や NPO による森づくり活動や緑の少年団による活動についても、もう一度存在感を高めるための工夫が必要。